

第5章 新たなリスクの発掘

ヒヤリハット日誌の記帳

新たな「危険」(リスク)を見いだす手法として、ヒヤリハット日誌を作成し、6地区において法人、個人等に依頼して毎日記録してもらった。

これまで、ヒヤリハットの記録は、一般的なアンケート形式で「あなたは、これまで〇〇の作業において、ヒヤッとしたことやハットしたことはありませんか」の調査が中心であった。このようなアンケート調査では、よほど重大なヒヤリハットは記憶されるが、軽微なヒヤリハットは記憶されることがなく、アンケート調査によって顕在化することはほとんどない。かし、軽微なヒヤリハットを記録し、かつヒヤリハットが生じる事の無いような対策を取る事で、重大な事故を未然に防ぐことができる。

農業以外では、日々ヒヤリハット日誌を記録するなど、常に危険(リスク)を抽出する事業所はあるが、農作業現場でのヒヤリハット日誌の日々の記録を試みたの、おそらく日本では初めての試みです。

実施した地域は、鹿児島(2法人・6人、2個人)、熊本・菊池労災組合(1労災組合・5人)、えちご上越農協(4法人・9作業工程)、長野(1農協・4人)、滋賀(4個人7)でした。

記帳は、作業内容を日々記録してもらい、その中でヒヤリハットがあれば、ヒヤリハットの記帳ページに日々記録する形式を取った。なお「農作業記録」及び「ヒヤリハットしたことと対策」は30ページを用意した。

その結果、作業記録日数は合計546日、そのうちヒヤリハットの記帳のあった件数は126件であり、作業日数に対する比率は23.1%でした。

ヒヤリハットの126件の中には、これまで見過ごしていたヒヤリハットについて記録することで、「これは、どうしても対策を取るべきだ」として改善、あるいは組織として運営の方法を変えた等、多くの効果的な事例が報告されました。

つまり、日々記録することで、今まで何気なく思っていた「ちょっとヒヤリ、ハット」の事象が、意識として顕在化し、対策をとり実践するまでに至った点で、極めて効果的な手法であることが明らかとなった。

特に、このヒヤリハット日誌の記帳はみすごされがちな日常の危険を顕在化し、発掘する上で極めて有効であると考えられた。

以下に、ヒヤリハット日誌の形式を紹介する。作業日誌は30日、ヒヤリハットのページも30日分を一冊の日誌とし。表題は「農作業安全 アイディア日誌」とした。つまり、「危ない、危ない」を強調するのではなく、「改善した、改善したら良くなった」を積極的に紹介できるよう配慮した。

農作業事故の対面調査

新たなリスクの発掘のため、過年度に実施した「農作業事故の対面調査」を実施した。今年度は、55例について実施した。



農作業安全アイディア日誌の記帳

1. 記帳の目的
 毎日の農作業を記録し、その時、「ヒヤリ」したこと、「ハット」したことを記録することで、「こうすればもっと楽に作業ができる」、「こうすれば安全に作業ができる」アイディアや思いつき、改善提案を記録して下さい。
 そのことで、安全な作業への一歩となればと思います。

2. 毎日記録することで
 毎日記録することで、今まで気がつかなかった事にも、「安全」の視点で注意を向けていただければと思います。

住 所			
氏 名		男・女	
生年月日	昭・平	年	月 日 年齢

1. 農家

①専業農家

②兼業農家

③集落営農・組織営農に参加

④その他 ()

2. 就農年月 (年)

3. 昨年从今年の農業の規模

(1) 圃場面積 () ha
 (稲・麦・大豆・そば・ハクサイ等の野菜・ハク・花卉・お茶・牧草地・ミカンなどの果樹等、具体的に)

① _____ () × 10a

② _____ () × 10a

③ _____ () × 10a

④ _____ () × 10a

⑤ _____ () × 10a

(2) 飼育頭数、羽数等
 (乳牛、肥育牛、豚、鶏、その他)

① _____ (頭・羽)

② _____ (頭・羽)

③ _____ (頭・羽)

④ _____ (頭・羽)

⑤ _____ (頭・羽)

農 作 業 記 録

平成 年 月 日 (天候 気温)

NO	時 刻		作業時間 (分)	作 業 内 容
	開始	～ 終了		
1		～		
2		～		
3		～		
4		～		
5		～		
6		～		
7		～		
8		～		

*作業項目が多い場合は、次ページを使って下さい。

「ヒヤリ・ハット」した事とその対策

平成____年____月____日（当日の農作業NO____）

時刻____時____分頃 天気____ 気温____度

<p>「ヒヤリハット」の内容（図面）</p>	<p>①いつ、②どこで、③何をどうしようとして、④どのようになり「ヒヤリ・ハット」したか（各項目が抜けないように記述して下さい）</p> <p>図面</p>
<p>原因</p>	<p>なぜ、「ヒヤリ・ハット」が起こったと思いますか。（環境・機械・物、人等）</p> <hr/> <p>体 調や気持ち：普通・不調・疲れ気味・気持ち：焦り・考え事・（複数回答可）慣れ過ぎ・不慣れ・ちょっとの間と思い… その他（ ）</p>
<p>対策（案）</p>	<p>①どのようにすれば、防ぐ事ができたと思いますか。</p> <hr/> <p>②実施した対策</p>

なお、日誌の形式として、作業日誌とヒヤリハット日誌は見開きで連続していた方がいい、との意見が多かった。